

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
メディア委員会名簿

平成29年7月11日時点

役職	委員氏名	所属先役職等
委員長	日枝 久	株式会社フジテレビジョン取締役相談役
副委員長	石川 聡	一般社団法人共同通信社顧問
委員	安藤 洋二	株式会社TBSテレビ 東京オリンピック・パラリンピック室長
委員	池田 正一	東京写真記者協会事務局長
委員	石井 ユミ	産経新聞東京本社営業局開発一部長
委員	笛吹 雅子	日本テレビ放送網株式会社報道局社会部専門副部長
委員	Khaldon Azhari	President, the Foreign Correspondents Club of Japan
委員	川嶋 明	一般社団法人日本新聞協会専務理事
委員	狐崎 浩子	株式会社テレビ東京執行役員ネットワーク局長
委員	五井 憲子	一般社団法人共同通信社総務局企画委員
委員	小杉 善信	日本テレビ放送網株式会社取締役 専務執行役員 コンテンツ全般担当 編成・制作・情報カルチャー・スポーツ担当
委員	小菅 洋人	毎日新聞社 執行役員 広報担当 社長室長 オリンピック・パラリンピック担当
委員	小牧 次郎	スカパーJ S A T株式会社取締役 執行役員専務 有料多チャンネル事業部門長 兼 放送事業本部長
委員	今野 義範	株式会社ジェイ・スポーツ取締役編成部・制作部・メディアライツ事業部
委員	齋藤 秋水	株式会社フジテレビジョン営業局長
委員	佐藤 耕二	株式会社テレビ朝日スポーツ局長
委員	佐野 慎輔	産経新聞東京本社特別記者（東京五輪・パラリンピック担当）兼論説委員
委員	白川 美紀	日本経済新聞社オリンピック・パラリンピック推進室長
委員	関根 英生	株式会社文化放送放送事業本部副本部長兼編成局次長（兼編成制作部長）
委員	平 一彦	株式会社エフエム東京専務取締役
委員	草野 啓	株式会社テレビ東京執行役員スポーツ局長
委員	東実 森夫	株式会社時事通信社取締役 五輪・パラリンピック担当
委員	富重 圭以子	毎日新聞東京本社専門編集委員
委員	中屋 祐司	一般社団法人共同通信社常務理事
委員	夏野 剛	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特別招聘教授
委員	樋口 昌之	日本放送協会報道局 2020東京オリンピック・パラリンピック実施本部 副本部長
委員	檜原 真紀	株式会社ニッポン放送取締役
委員	福地 献一	朝日新聞社 取締役（マーケティング／知的財産／Re ライフプロジェクト／オリンピック パラリンピック・スポーツ戦略担当）
委員	藤丸 真世	株式会社TBSテレビ・スポーツ局スポーツニュース部
委員	前川 万美子	株式会社フジテレビジョン国際局長
委員	丸山 実子	株式会社時事通信社内政部専任部長
委員	宮嶋 泰子	株式会社テレビ朝日スポーツ局スポーツコメンテーター
委員	村岡 彰敏	読売新聞東京本社専務取締役総務局長・関連会社・不動産・コンプライアンス・広報・オリンピック・パラリンピック担当
委員	村松 佐和子	日本放送協会報道局スポーツセンター・スポーツ番組部チーフプロデューサー
委員	本橋 春紀	一般社団法人日本民間放送連盟業務部部长
委員	山田 英樹	一般社団法人日本雑誌協会 日本雑誌記者会・写真記者会事務局長
委員	結城 和香子	読売新聞東京本社編集委員
委員	豊 吹雪	朝日新聞社オリンピック パラリンピック・スポーツ戦略室主査
委員	吉田 直人	日本経済新聞社常務取締役

※異動等により新たに委員に就任される方に網掛けをしております。



## アクション&レガシープラン2017概要及び東京2020参画プログラムの現状について

---

第7回メディア委員会

2017年07月11日

## 目次

1. **アクション&レガシープラン2017 概要**
2. **東京2020フェスティバル（仮称）の方向性**
3. **夏へ向けた機運醸成について**
4. **東京2020参画プログラムの現状と今後の展望**

# 1. アクション&レガシープラン2017 概要

## 全体概要

		概要	
Part A	本文	第一章：はじめに	アクション&レガシープランの全体像
		第二章：スポーツ・健康	各章の基本的な構成 ・レガシー：2020年以降を見据え、何を後世に残すべきか ・アクション：実施されたアクション及び、レガシー創出の為にやるべきアクション (主な例) (レガシー及びアクションの前提となる「基本的な考え方」や「現状と課題」については、2016年を参照として本年度版では省略)
		第三章：街づくり・持続可能性	
		第四章：文化・教育	
		第五章：経済・テクノロジー	
		第六章：復興・オールジャパン・世界への発信	
		第七章：東京2020参画プログラム	東京2020参画プログラムについて記述
		第八章：東京2020フェスティバル	東京2020フェスティバルについて記述
Part B	一覧表	アクション一覧	政府、東京都、被災3県、JOC、JPC、経済界、組織委員会等のアクション一覧を記載
Part C	一覧表	参画プログラム認証事業一覧	東京2020参画プログラムにおいて認証された事業の事例を紹介

## 2016年版からの主な変更点

- 全体構成として、本文とアクション一覧及び参画プログラムの認証事業一覧の三部構成に変更。
- 本文については時点更新及び「東京2020参画プログラム」「東京2020フェスティバル」について追記。2章以降の「基本的な考え方」「現状と課題」については省略するとともに、実施された事業を事例として記載。
- アクション一覧については時点更新。参画プログラムの事業については各事業に1枚の概要資料を作成。

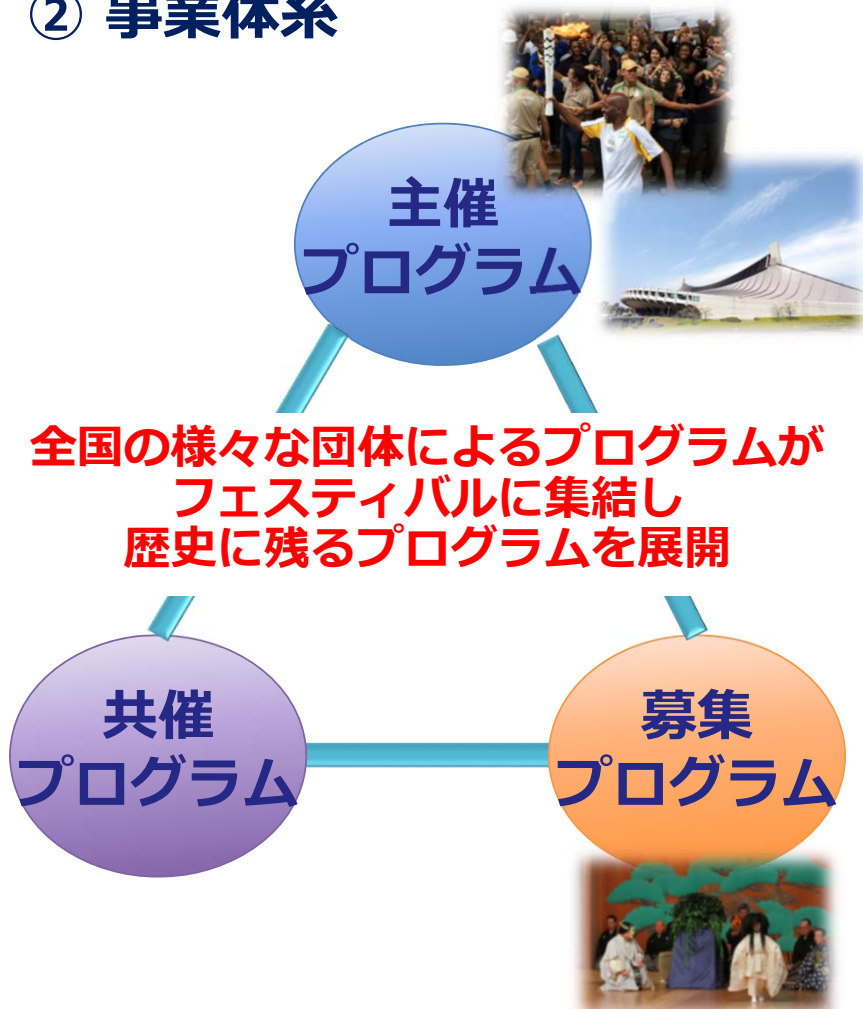
## 2. 東京2020フェスティバル（仮称）の方向性

### ① 概要

<b>名称</b>	東京2020フェスティバル（仮称）
<b>会期</b>	2020年4月頃から9月頃まで
<b>目的</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 東京2020文化オリンピックアードの集大成として、4つのレガシーコンセプトの実現（①日本文化の再認識と継承・発展、②次世代育成と新たな文化芸術の創造、③日本文化の世界への発信と国際交流、④全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化）を目指す。</li><li>● 東京2020大会の前から国内外におけるオリンピック・パラリンピックの機運を最大化する。また、オリンピック・パラリンピックの間をパラリンピックムーブメント期間とすることにより、オリンピックの盛り上げをパラリンピックにつなぐ。</li></ul>

## 2. 東京2020フェスティバル（仮称）の方向性

### ② 事業体系



#### <主催プログラム>

- 組織委員会が主導し、大会と連動するプログラムを実施

#### <共催プログラム>

- 東京2020大会を象徴するプログラムを政府、東京都、地方自治体、文化芸術団体等と共に実施

#### <募集プログラム：全国地方自治体や文化芸術団体等>

- 地方自治体や文化芸術団体などが実施する、一定の要件を満たすプログラムがフェスティバルに参加できる仕組みを構築

## 2. 東京2020フェスティバル（仮称）の方向性

### ③ 主体ごとのプログラムの方向性（イメージ）

主体	プログラムの方向性
組織委員会	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 大会と連動するプログラムを中心に実施（※）<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 東京2020大会を象徴する歴史に残る大規模プログラム</li><li>✓ 聖火リレー等、大会イベントと連携したプログラム</li><li>✓ オリンピックとパラリンピックが融合したプログラム（障がい者芸術等）</li><li>✓ I O Cとの連携プログラム（国際交流）</li></ul></li></ul>
政府	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 日本文化全体を活性化するためのプログラムを推進</li></ul>
東京都	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 東京都が大会に向けて実施する様々な文化プログラムのうち、多様な文化芸術等を国内外にP Rするプログラムなど、フェスティバルのコンセプトに合致するものを実施</li></ul>
地方自治体・文化芸術団体等	<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 東京2020大会を機に、多様な文化芸術等を国内外にP Rするプログラムを推進</li></ul>

※それぞれのプログラムは参画プログラムの各分野（スポーツ、教育、テクノロジー等）とも連動しながら検討。実施に関しては、今後の予算状況による。

## 3. 夏へ向けた機運醸成について

### ～概要～

2020年まで、あと夏は3回。

今年の夏は、東京都、国、会場関連自治体、スポンサー、その他を含め日本全国で大会に向けた機運を醸成していきたい。

- 大会エンブレムを使った法被、うちわ。
- 同時期に各地で行われる3年前イベント、全国フラッグツアーとの横の連携。
- 全国で行われる夏祭りでも、大会と関連付けて盛り上げる。
- 参画プログラムも「3 Years to Go!」として、特別マークを用意。
- 今後の1000日前イベント、来年の平昌大会などとの縦の連携。
- 公式SNS等に、多くの方々に参加頂き情報を発信する。

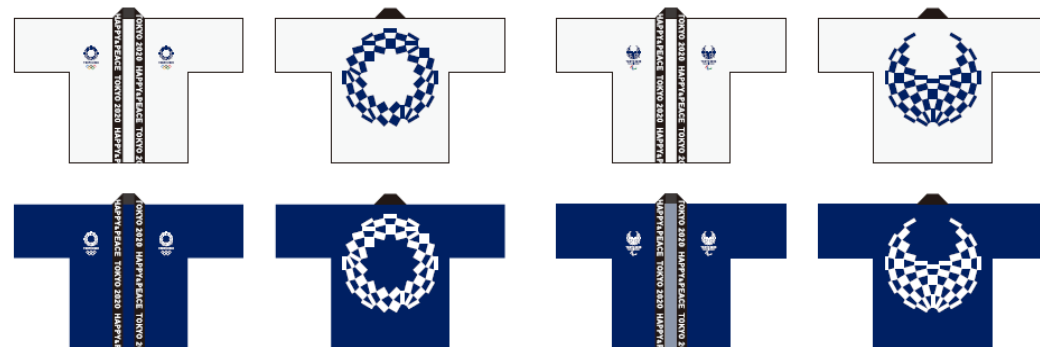


### 3. 夏へ向けた機運醸成について ①

～ この夏！「法被・うちわ」で全国夏祭りを盛り上げたい！ ～

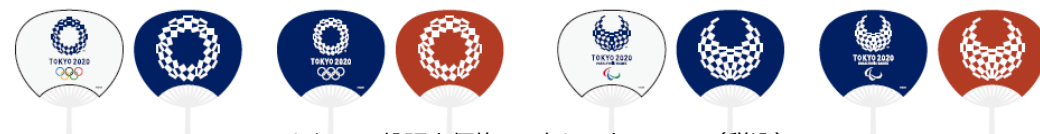


法被



法被 一般販売価格 1着 5500円 (税込)

うちわ



うちわ 一般販売価格 2本セット 300円 (税込)

7月3日(月)より、東京2020オフィシャルオンラインショップ他にて、一般販売を開始しております。その他の詳細等については、公式ホームページでお知らせいたします。<https://tokyo2020shop.jp/> なお、一般販売に先駆け、全国の商工会議所などに夏祭りでの活用をお願いし、既に、うちわは14万本以上の申込をいただいております。

### 3. 夏へ向けた機運醸成について ②

～ みんなで参画!&みんなでつながる! ～



参画プログラムは、本年4月現在で約9000件のつながりをもたらしました。2017年7月20日(木)より応援プログラムの対象団体を拡大します。地域の皆様からの参画をお待ちしております。



**3** Years to Go!



**3** Years to Go!

東京2020大会3年前を機に、『3 Years to Go!』入りの参画プログラムのマークを展開します(7～9月に展開)。全国で展開される夏祭り・イベント等に使用していただき、機運醸成に繋げていきます。

### 3. 夏へ向けた機運醸成について ③

#### 応援プログラム（夏祭り）について

- 東京2020大会に向けて、日本の伝統文化である夏祭りを絡めた、機運醸成施策を展開。
- 夏祭りを応援プログラムとして認証するために、夏季限定の専用のガイドライン（2017年度版）を策定。ガイドラインには以下の内容を記載。
  - ・ 協力者・後援者等の条件を一定の条件で緩和
  - ・ マークを使用しない広告等媒体では、パートナー以外の営利団体を露出可能
  - ・ マークを使用する広告等媒体では、パートナー以外の営利団体を露出不可
  - ・ 会場における飲食店等の出店

### 3. 夏へ向けた機運醸成について ③

#### 応援プログラムとして認証した夏祭りの例

○7月29日「第38回品川区民まつり大会 荏原第三地区」

場所：品川区立京陽小学校

主催：品川区青少年対策地区委員会連合会

(品川区区民まつりの様子)



○7月29日「立野地区区民館運営委員会  
第31回夏まつり（盆おどり）」

場所：練馬区立立野小学校

主催：立野地区区民館 運営委員会

○8月5日・6日「みんな集合！大盆踊り大会2017」

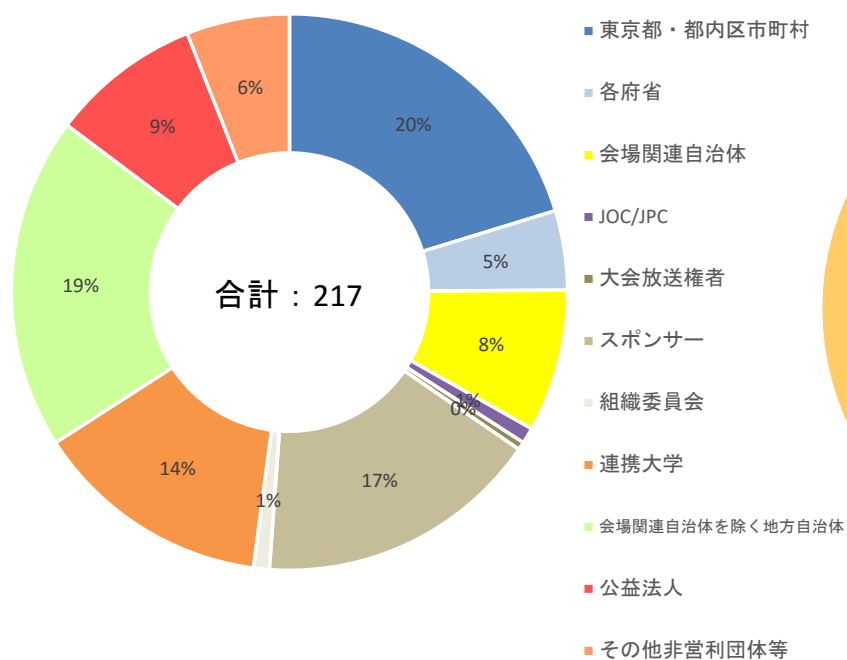
場所：江東区文化センター

主催：公益財団法人江東区文化コミュニティ財団、東陽四丁目連合会

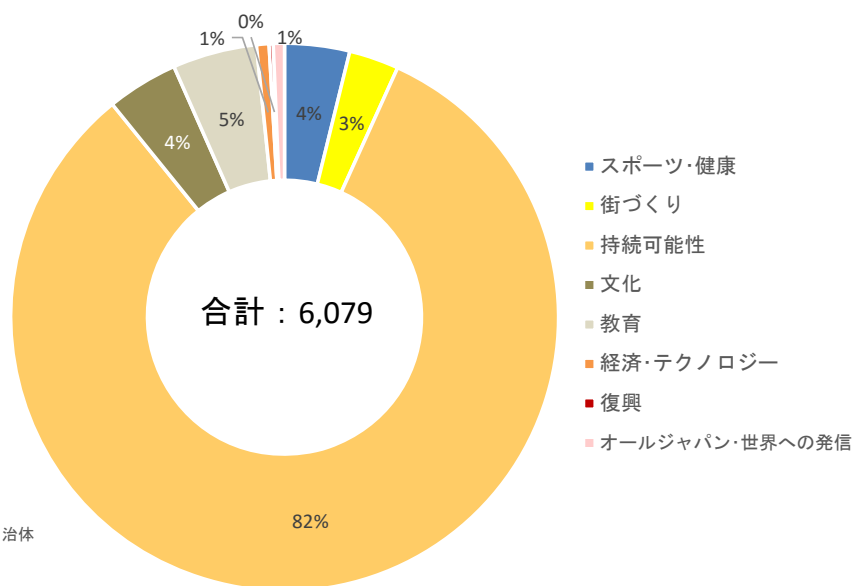
## 4. 東京2020参画プログラムの現状①

- 2016年5月末時点で217の団体が主体登録を実施し、6,079件のアクションが認証されている。教育プログラム実施校は3,731校となり、東京2020参画プログラムの認証件数は全体で約10,000件。アクションの参加人数は約280万人となっている。

主体登録数



認証済み件数



都道府県別学校認証数

都道府県	学校数	都道府県	学校数
岩手県	4	山梨県	6
宮城県	23	静岡県	4
山形県	9	京都府	50
茨城県	12	大阪府	2
栃木県	41	兵庫県	6
群馬県	2	奈良県	1
埼玉県	288	広島県	7
千葉県	207	福岡県	13
東京都	2,327	長崎県	22
神奈川県	680	熊本県	22
石川県	5	合計	3,731

※各データは5月31日時点

## 4. 東京2020参画プログラムの現状②（東京2020大会に繋がる事例）

持続  
可能性

都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト！



- 日程： 平成29年4月～平成31年春頃（予定）
- 場所： 参加自治体、全国のドコモショップ
- 体制： 東京2020組織委員会・NTTドコモ・日本環境衛生センター・環境省・東京都
- 内容： 「国民参画」形式でメダル製造に必要な金属量をリサイクルし製造する取り組み

## 4. 東京2020参画プログラムの現状②（東京2020大会に繋がる事例）

教育

### 東京2020大会マスコットデザイン募集



- 募集期間： 平成29年8月1日～14日
- 内容： 最終審査として全国の小学校のクラスごとに投票を行い、最も得票の多いデザインで決定、来年3月頃の発表を予定。（ネーミングの決定は来年夏頃の予定）

## 4. 東京2020参画プログラムの現状③ (復興)

認証済みアクション件数：12件（2017年5月末時点）

### 【代表的な取り組み】

- ・被災地へのアスリート派遣
- ・被災地での民俗芸能の承継イベント
- ・学生対象の防災セミナーやボランティアツアー 等

### ★アクション例



○岩手県：いわて復興未来塾  
東日本大震災からの復興を力強く進めていくため、復興を担う多様な主体が学び合う

○東京都：未来（あした）への道  
1000 km縦断リレー2017  
青森から東京まで、東日本大震災の被災地をランニングと自転車  
でつなぐリレー



## 4. 東京2020参画プログラムの現状③（オールジャパン・世界への発信）

認証済みアクション件数：20件（2017年5月末時点）

### 【代表的な取り組み】

- ・外国人や外国都市との国際交流
- ・語学ボランティア養成イベント
- ・おもてなし関連セミナー

### ★アクション例

- ①東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアー  
・都内と被災地（岩手県、宮城県、福島県、熊本県）を巡回したフラッグが、ベニユー都市を皮切りに、7月から全国へ展開。
- ②競技会場都市での3年前イベント  
・7月24日に、東京都やベニユー都市でカウントダウンイベントを開催。

福島県 「東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議」 &  
「ふくしま大交流ミーティング～みんなのTokyo2020 3Years to Go!～」  
埼玉県 埼玉でも開催！3年前イベント～みんなのTokyo2020 3 Years to Go!～  
千葉県 ALL CHIBAで盛り上がりよう！～みんなのTokyo2020 3 Years to Go!～ など



〈都内でのフラッグツアーの様子〉

## 4. 東京2020参画プログラム今後の展望

### 今後の展望

- ・ 7月の主体拡大に伴い、地域の取組を申請していただけるよう、全国自治体をはじめとする様々な非営利団体に働きかける
- ・ 組織委員会が、地域の主体によるアクションと連携し、ワークショップや取材等を行うことで、魅力的なアクションを積極的にPRし、オールジャパンでの取組につなげる
- ・ 国、自治体、大会スポンサー等のステイクホルダーと連携し、誰もが参加でき、心のレガシーとなるようなアクションを創出



## 小・中学生からのポスター募集企画について

---

2017年 7月11日

# 1. 目的

## 概要

全国の小・中学生から、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けたポスターを募集。  
応募作品について、メディア委員会による選考を行い、表彰を実施。

## 目的

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、学校や子どもたちの大会への関心を高め、もって、大会の機運醸成を図ることを目的とする。

## 2. 作品募集

### (1) 募集期間

- ・ 2017年7月～10月（予定）

### (2) 作品テーマ

- ・ 「～知ろう！観よう！応援しよう！～東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に抱く私の夢」

※東京2020大会総合とパラリンピックの2部門を設ける

### (3) 募集対象

- ・ 全国の小学生、中学生、特別支援学校小学部、特別支援学校中学部及び海外日本人学校に在学中の児童・生徒。
- ・ 小学校は5年生、中学校は2年生を基本的に対象とする。  
(学校の判断によっては、他学年での参加も可)

### (4) 募集方法

- ・ 都道府県教育委員会を通じて各区市町村教育委員会等に依頼。
- ・ 各学校から児童・生徒宛に周知。
- ・ あわせてマスコット投票の協力依頼を行う。



2016年度企画の作品

# 3. 表彰

## (1) 選考方法

- 学校毎に50作品につき1作品を選出し、組織委員会に送付。(参考：昨年度は649校からの応募有り)
- 各学校から送付された作品から、組織委員会職員の投票により優秀作品を選出。それらの作品の中から、メディア委員の投票により金・銀・銅賞を決定。(参考：2016年度は優秀作品50作品の中から15作品を決定)

## (2) 表彰

- 金・銀・銅賞に対して表彰を行う。
- 金賞等の受賞者の表彰式を実施。

## (3) スケジュール (予定)

- 募集の周知 7月上旬
- ポスター製作 7月～9月
- 各学校からの提出 10月中旬
- 優秀作品の選出 1月下旬
- 表彰式 2～3月



2016年度表彰式の様子

## 4. 作品の活用

小・中学生の作品については以下の活用を想定

### (1) 組織委員会での活用

- ① 組織委員会ホームページへの掲出
- ② 各種イベントでの掲示
- ③ 組織委員会内での掲示

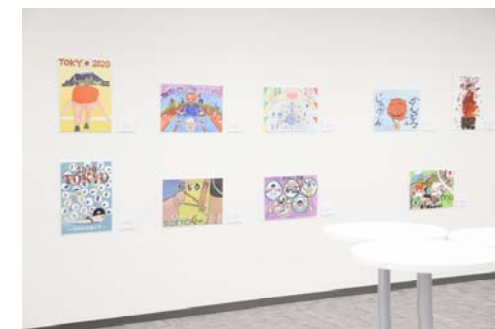
### (2) 自治体、パートナー等での活用

- ① 自治体主催イベントでの掲示
- ② 自治体広報等での活用
- ③ パートナー関連施設での展示

組織委員会HP



組織委員会内の展示 (9階)



パートナー企業での活用



## 〈参考〉昨年度の実績

### ①前回の実施要項

- ・対 象：全国の小・中学生、特別支援学校小学部、特別支援学校中学部及び海外日本人学校に在学中の児童・生徒  
(小学5年生、中学2年生等を対象に実施)
- ・テーマ：『リオオリンピック・パラリンピック大会で心に残ったこと』  
『東京大会に期待すること』
- ・時 期：2016年7月～11月
- ・その他：教育委員会から各学校に依頼（実施の可否は各学校が判断）

### ②結果

- ・総数（うち、海外）  
応募数：26,292点（335点） 代表作品数：1,205点（26点） 学校数：649校（20校）
- ・内訳（うち、海外）  
〈小学校、特別支援学校小学部含む〉  
応募数：20,627点（67点） 代表作品数：894点（17点） 学校数：497校（11校）  
〈中学校、特別支援学校中学部含む〉  
応募数：5,665点（268点） 代表作品数：311点（9点） 学校数：152校（9校）





## 東京2020参画プログラムの活性化

---

※本資料は、具体的に計画しているものではなく、あくまで本日の議論のたたき台として準備したものです。

# 1. 東京2020参画プログラムの活性化（復興・オールジャパン・世界への発信）

- 全国のご当地PR映像の募集・発信（全国都道府県から募集し、大会開催時にジャパンハウスなどで発信）
- 県産品活用の検討（会場等での地元産品の活用を検討）
- ポスター企画（小中学生からポスターを募集。大会時に選手村等で活用。例えば、各国・競技などをテーマにしたポスターを募集し、選手の部屋に飾るなど）
- 子供レポーター（児童・生徒が東京2020大会時にレポーターとして大会の会場内の様子や選手、大会のスタッフなどを取材。例えば、組織委員会HP等で情報を発信）
- 被災地から世界に向けたメッセージの発信（被災地の競技会場等で復興支援への感謝のメッセージ、復興の状況、東北の伝統芸能などを発信）



## 2. 参画プログラムの活性化アイデア（その他分野）

分野	内容
スポーツ・健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運動会の活用（パラスポーツ・東京2020大会新種目を取入れた運動会、地域の学校の合同運動会、特別支援学校との共同運動会「地域のオリパラ運動会・応援合戦」）</li> <li>• 1人1アスリート運動（アスリートに対し学校で応援メッセージを寄せ書き。選手村で寄贈。ホームページでの掲載。アスリートからの返事。）</li> <li>• 自己ベストサイト（あらゆる人の自己ベストを募集するサイト。例えば、初めてマラソンを完走したなど。）</li> <li>• 種目別アイデア募集（競技種目を盛り上げるためのアイデア募集。例えば、その競技を知ってもらうための体験教室。）</li> <li>• 競技会場に親しみを持ってもらうイベントの検討（競技会場を使用したトライアルゲームなど）</li> </ul>
街づくり・持続可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>• スポーツゴミ拾い（ゴミ毎にポイントを設定し、ゴミ拾いを競うイベントの呼びかけ例えば、本イベントに専門委員等に任意参加していただき、取組を全国に広めてもらう）</li> <li>• ゴミアート（廃棄物でアート作品作成を呼びかけ 例えば、大会時の廃棄物や仮設会場建設での廃棄資材を有効活用し、アート作品を創造）</li> <li>• サイネージ（例えば、競技会場周辺の利便性を大会通じてさらに向上させるために地元学生から大会時のサイネージ案を募集）</li> <li>• バリアフリーマップ（例えば、競技会場周辺のバリアフリーマップの作成を小中学生に呼びかけ、その後地域の公園に掲載）</li> <li>• 大会で使用した資材等の活用（例えば後の大規模スポーツイベント等で、大会で使用したケーブルやごみ箱等の活用）</li> </ul>

## 2. 参画プログラムの活性化アイデア（その他分野）

分野	内容
文化・教育	<ul style="list-style-type: none"><li>・「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」との連動企画 ⇒リサイクル金属以外の様々な部品を使い、アート作品を作るワークショップ</li><li>・「小・中学生ポスター募集」との連動企画 ⇒大会と連動し作品を様々な場所で展示 ⇒優秀作品作成者がキュレーションし展示会を実施</li><li>・オリンピック・パラリンピックをテーマにした作品制作（映像・アニメ・モニュメント等）</li><li>・1964レガシーである「オリンピック音頭」を活用した事業（音楽や踊りをアレンジ）</li><li>・大会エンブレムの藍色や市松模様をフラッシュモブなどで活用</li></ul>
経済・テクノロジー	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の魅力を発信する映像作品の募集（ホストタウンの魅力を発信等）</li><li>・高臨場感技術やインタラクティブなコミュニケーション技術を活用した競技観戦</li><li>・テクノロジーを活用したパラスポーツ体験（VRやIoTによる新しいスポーツ体験等）</li><li>・トップアスリートの動きを体感（パワースーツによる体感、ロボットによるデモ等）</li><li>・東京2020大会の競技をテーマとしたロボコンを開催（ロボットボッチャ大会等）</li><li>・日本の最先端の技術を体験できるショーケースを実施</li></ul>